

< 母平均の区間推定 3 >

正規母集団からの標本数 n が小さいときは、7 ページ (*) 式や 8 ページ (*)' 式は適用できない。この場合は t -分布を使う。

正規母集団 $N(\mu, \sigma^2)$ から無作為復元抽出により n 個の標本 X_1, X_2, \dots, X_n を得た。その標本平均 \bar{X} と不偏分散 U を

$$\bar{X} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i, \quad U = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2$$

とする。各 X_i は $N(\mu, \sigma^2)$ に従う確率変数であり、 $\{X_1, X_2, \dots, X_n\}$ は独立だから、正規分布の性質によって \bar{X} と U は独立になり、

$$T = \frac{\bar{X} - \mu}{\sqrt{\frac{U}{n}}} \quad (T\text{-統計量})$$

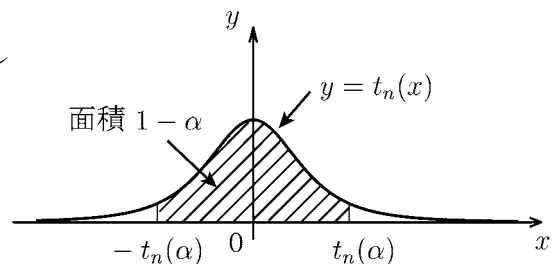
は自由度 $n-1$ の t -分布に従う。すなわち

$$P(a < T < b) = \int_a^b t_{n-1}(x) dx,$$

$$t_n(x) = \frac{\Gamma(\frac{n+1}{2})}{\sqrt{n\pi}\Gamma(\frac{n}{2})} \left(1 + \frac{x^2}{n}\right)^{-\frac{n+1}{2}}$$

が成り立つ。ここで $0 < \alpha < 1$ なる α に対し

$$\int_{-k}^k t_n(x) dx = 1 - \alpha$$



をみたす正数 k を $t_n(\alpha)$ とおく。

T の密度関数が $t_{n-1}(x)$ だから

$$P\left(\left|\frac{\bar{X} - \mu}{\sqrt{\frac{U}{n}}}\right| \leq t_{n-1}(\alpha)\right) = 1 - \alpha$$

が成り立つ。よって

$$\text{確率 } 1 - \alpha \text{ で } \boxed{\bar{X} - t_{n-1}(\alpha)\sqrt{\frac{U}{n}} \leq \mu \leq \bar{X} + t_{n-1}(\alpha)\sqrt{\frac{U}{n}}} \quad (**)$$

が成り立つ。(**) が信頼度 $1 - \alpha$ の信頼区間である。